

## すみだタウンミーティング 議事録

<b>テーマ</b>	みんなでつくろう！すみだの未来 第1回「知る力」と「知らせる力」
<b>日時</b>	令和3年7月11日（日）午前10時15分～正午
<b>会場</b>	すみだリバーサイドホール2階イベントホール／オンライン（Zoom）
<b>参加者</b>	31名（会場：15名、オンライン：16名）

### <はじめに>

**司会** すみだタウンミーティング みんなでつくろう！すみだの未来 第1回「知る力」と「知らせる力」を開催する。このすみだタウンミーティングは、有志の区民6名で組織する、企画運営委員会で企画検討を重ねてきた。タウンミーティングを墨田区は活発にやっているが、区民と区長が直接対話をして、対話を通して出た内容、意見や想いを区政に反映していくために行っている。

今日のテーマは「知る力」と「知らせる力」であるが、協治(ガバナンス)まちづくり推進条例施行10周年として今年度は年4回開催する。まずは、区から協治(ガバナンス)、広報のシティプロモーションについてお話す。

### <協治（ガバナンス）、シティプロモーションの説明>

**事務局（地域活動推進課）** 今年度は、「協治（ガバナンス）推進条例施行10周年」ということで、“協治（ガバナンス）”についてお話させていただく。墨田区における協治（ガバナンス）とは、「区民等と区が、それぞれの果たすべき役割と責任を分担し、ともに考え、ともに行動することで、地域の課題を解決していく社会のあり方」を言う。みんなの知恵と力で“すみだ”をつくる「協治（ガバナンス）によるまちづくり」を区政運営の柱としている。そのルールづくりとして、2011年に「墨田区協治（ガバナンス）推進条例」を作った。協治（ガバナンス）を進めるために必要な3つの力を「知る」「つながる」「行動する」力とし、今年度はこの3つの力をテーマとし、タウンミーティングを実施する。

本日テーマの「知る力」は、協治によるまちづくりは、まず地域を知り、何が地域の課題なのかを一緒に考えることから始まる。そのためには、一人ひとりが生きた情報を「知る力」、「知らせる力」をもつことが大切である。そして、必要な情報が共有されていることが前提となるため、多くの情報を持っている行政や団体には「知らせる力」が求められる。

協治（ガバナンス）推進条例ができてからのこの10年を振り返ると、まず、墨田区としてのこの10年の主な出来事は、なんといっても2012年に東京スカイツリーができたことかと思う。下町や、ものづくりの街というイメージが強くあったが、それに加え新たに国際観光都市というイメージができた転換点だったのではないか。その後、2016年には、世界的にもファンの多い絵師、葛飾北斎の美術館、すみだ北斎美術館ができ、こちらも世界中から多くの観光客が訪れるようになり、国際観光都市としての側面を加速さ

せた。また、区の人口も2011年4月には約24万人であったが、今年1日には、27万6千人余りに増加した。

「知る」について、国内の状況に目を向けると、ちょうど10年前は携帯電話がスマートフォンへの移行が始まった時期になる。携帯電話の保有率は、2013年にスマホとスマホ以外の割合がほぼ同じになり、2019年にはスマホの保有率が7割近くとなった。それに伴い、LINEやFacebook、Twitterの利用率も上がっている。

墨田区の「知る」の10年に目を向けると、情報発信ツールとして、これまでは、区の広報紙やチラシ、HPが中心であったが、2011年にTwitterが開設され、その後FacebookやインスタグラムなどのSNSによっても積極的に情報発信するようになった。2016年（平成28年）からは、シティプロモーションを展開している。

**事務局（広報広聴担当）** 墨田区は、平成28年に策定した「広報広聴プラン」に基づいて、区民の皆さんの“すみだ”への愛着と誇りを育んでいき、さらに区外の人々へ“すみだ”への共感と憧れが生まれていくように本区の魅力を効果的に発信するための「シティプロモーション」を推進してきた。これまでに、区報のリニューアル、SNS発信力強化、「人」のシティプロモーションロゴマークの普及などをはじめ、区民の皆さんがこの墨田区への愛着・誇りを抱いていただけるように新たな取組を行ってきたが、その取組を進めていく過程で、区に対する区民の皆さんの愛着度が深まることによって区の新たな魅力が創出され、地域の情報が多くの人に発信されていき、その結果として区民がすみだのまちに対する想いを一層強くしていくことで良いまちづくりへの参加につながる、という循環が生まれることから、地域の皆さんの自分のまちに対する愛着、この愛着のことをシビックプライドと言うが、これを醸成することの重要性を認識した。

このことから、魅力的なまちづくりを実現していくための、シティプロモーションのあり方を今一度見直しつつ、さらに一層の推進を図っていくために、「墨田区基本計画」の改定に合わせて、新たなシティプロモーションの戦略プランを策定するべく、現在準備を進めている。

本日のタウンミーティングのテーマである「情報を伝える・受け取るための工夫と課題」は、協治（ガバナンス）の考えに基づいて、地域の皆さんと区が一緒になって魅力あるまちづくりを実現し、発信していくことを大切にしていくというシティプロモーションの考え方に、大きく関係することから、区民の皆さんのお考えを広くお伺いさせていただき、今後の計画策定の参考にさせていただきたいと考えている。ぜひ、皆さんと一緒にあって地域の魅力を発信していきたい。

## <区長挨拶「墨田区の今」>

**区長** 皆さん、こんにちは。日曜日、梅雨時ではあるが会場にお越しいただいた皆さん、リモートで見ている皆さん、すみだタウンミーティング開始ということで御礼を申し上げます。

### （タウンミーティングについて）

区長になって7年目になった。基本中の基本であるが、一貫してこの6年間、区民の皆

さんの声をしっかり伺って、区政を運営していきたいと思っている。今年も4回やらしていただく。この間、「大変頑張っているね」、「墨田区はこういうところがもったいないね」、「区長もっとこうしてほしい」というお話をいただいたり、さらにもっと厳しいご意見をいただいたりしてきた。とにかくしっかりと皆さんのお話を伺って、タウンミーティングの成果として区政へ反映していきたい。これはずっと続けていきたいと考えている。

#### **(協治ガバナンス、シティプロモーションについて)**

それから協治(ガバナンス)推進条例10周年ということで、施行当時は、区議をやっていたが、前区長がこの考え方を示されていて、とってもいいことだなと当時思った。それから10年たったが、「協治(ガバナンス)10周年です」と区民のみなさんに紹介しても、「いったいなんだ?」と思う人もいるので、それを私はわかりやすくしたい。区政と一緒に作りあげていく取組なのに一方通行ではいけないので、まずはしっかり共有していきたい。

シティプロモーションの「人 つながる 墨田区」(ロゴマーク)。区民がつながっていて、行政ともつながっていて、事業者同士もつながっていて、たとえば医師会の先生方、歯科医師会、薬剤師会ともつながっていたり、子育て支援のメンバーともつながっていたり、介護施設の施設長さんともつながって、そういう“人がつながって墨田区が運営されていること”が、協治(ガバナンス)であり、みなさんにも理解していただけると良い。

今日の課題でもあるが、お互いが情報交換、知る・知らせることをこれからも継続・徹底して、できなかったことは改善し、行政として弱点だな、もう少し改良の余地があると率直に受け止めて、ともに改善していくことが大事だなという意味で、「知る力」と「知らせる力」で、皆さんと良いお話ができるのではないかなと思う。

#### **(新型コロナウイルス感染症について)**

「墨田区の今」について、私から簡単に情報提供としてお話させていただくが、一つ目は、新型コロナウイルス感染症対策のこと。一年以上、区民の皆さんにはご迷惑をかけて、明日からまた緊急事態宣言で、区民の気持ち、子どもたち、働く世代、高齢者の方々、それぞれ大変な思いをされているということを、区役所としてしっかり把握と認識をしたうえで進めていかなければならない。今、デルタ株対策もあらためてしっかりしていかなければならない。

今までいろんなことをやってきた。例えば、すみだモデルと言われる、重症病床で回復期にある方を、地域の二次救急医療機関の方々が後方支援病院として受け入れ、転院していただくことで重症病床を空けて、そこに必要とされる重症者を入院させていただく。これから、デルタ株対策では、保健所長と一緒に、189の病床があるが、病院の協力を得て230床にさせていただく。そして若い人の入院について。60歳以上の方の入院が、5月16日時点で40人が、1か月たって6月16日時点では3人。93%減少。ワクチン接種がそのような状況の中で動いている。このようなことを皆さんにお伝えして、40~50代の入院、重症化に先手を打って私たちは対処し取り組んでいる。

ワクチン接種に関しては65歳以上の方々の1回目が約81%、2回目も62.2%。区全体で1回目は約4割、2回目は2割打ち終わっている。明日集計して朝一の会議の中で、このことを確認しながら、しっかり先手を打っていく。コロナ対策、ワクチン接種の状況については、しっかりお知らせをして区民の皆さんが安心安全にワクチン接種をしていただくとか、コロナ対応についても、こういうことをしているので、ご安心をしていただきつつ、感染予防対策をお努めくださいと、とわかりやすくお伝えしていくことが、まだこれから続くかなと思う。

#### （「大学のあるまちづくり」について）

次に2つめは、「大学のあるまちづくり」について、実はまさにコロナ禍という状況のなかで昨年の4月1日に情報経営イノベーション専門職大学、そして今年の4月1日に千葉大学のサテライトキャンパスがオープン、開設された。

今でもいろいろな協働事業、連携事業をさせていただいている。なかなか、学生たちもリモート学習という中でまだ本格的な動きが見えないが、今後の墨田区にとって、学生さんとの連携による、または大学の知見を活かした区政とのかかわりというのは、大きな墨田区モデルとして発信していけたらと思う。ぜひ皆さんにもご参画いただいて、面白い、楽しい、そしてすみだの発展につながる連携ができたら良いなと思っているのでご期待いただきたい。

#### （SDGsについて）

最後に3つめ、SDGs（エスディージーズ）という言葉が最近使われる。持続可能な開発目標と言われている。これも、区民の皆さんにはどういうことなのか、よくわからないなということがあがるが、墨田区は、1,700自治体がある中で「他の都市の模範となる先進的な10都市」「自治体SDGs未来都市」に選んでいただいた。モデル事業をやってくださいと、国から予算も頂戴した。国の連携をもとに、SDGsの事業にこれから取り組んでいく。基本計画という、区の一番基本の計画の中にも、こうしたSDGsの17の目標を視野に入れ、区の事業をしっかりと取り組んでいきたいと感じている。これも皆さんにももう少し情報発信して、区民の皆さんの生活がSDGsの目標とつながっていることをわかりやすくお示ししながら、一緒になって取り組んでいきたい。

このほかにもたくさん課題もある。解決をしていかなければならないこともある。皆さんと一緒に協治(ガバナンス)の理念に基づいて取り組んでいかなければならない、そんな事業もあるので、ぜひご協力をお願いしたい。

最後にテーマをもう一度言うと「知る力」「知らせる力」ということで、こうした情報を伝え合う、共有する、分かりあう、そういう意味で、皆さんの忌憚のないご意見を頂戴したい。

#### <すみだの良さについて>

**司会** 区長から、「墨田区の今」についてお話いただいたが、今日は今まさに、墨田区で活躍されている素敵な方をゲストにお招きしている。向島にある料亭で芸者さんをされているなつめさん。私たちの住んでいる墨田区にある芸者さんという文化、墨田区以外ではなか

なか身近に感じられないもの。なつめさんはSNSのInstagramでも情報発信を活発にされている方でもある。芸者として10年間活躍されているなつめさんに、墨田の魅力についてもご紹介いただきたい。

**ゲスト** はじめまして。自己紹介がてらに趣味の話をさせていただく。趣味は旅行で、コロナ禍以前は暦通りの大きな休みを使って、年に1～2度は海外に出ていた。今は、36か国目を回って休憩中。国内旅行も積極的に行っていて残り5県で全国制覇というところで、休憩中。墨田区の中でいうと、散歩もそうだが銭湯巡りも大好き。こちらも休憩中。

#### **(すみだの良さについて)**

花街、花柳界の話をさせていただく。芸者さんのいる街のことを、花柳界（かりゅうかい）という。または、花街（はなまち・かがい）。10年前に向島の花柳界の門をたたいてから、墨田区の一員となった。芸者というのは、踊りや唄、お着物やかんざしで季節を取り入れて、皆さまに季節を感じていただくということも重きを置いていることのひとつであるが、今日は四季、春夏秋冬ですみだの良さを伝えられたらと思う。

春。隅田川沿いに咲く桜の花道。江戸時代から今に続く桜の名所。このお花見の時期には、私たち芸者衆がたつお茶屋さんも開かれている。夏には、隅田川花火大会。花街の中にも一年で一番忙しくなるにぎやかな催し。秋。毎年9月にお祭りがある牛島神社。芸者衆も参加させていただく手古舞。手古舞の音色や、皆さんで担ぐお神輿、牛のひく牛車など、古式ゆかしきが味わえる。そして冬。冬こそおすすめしたいのが向島百花園。私たちも良く、このような白塗りの支度をして、撮影もお客様にさせていただく名所でもある。四季の草花をぎゅっと詰め込んだ庭園の冬から始まる詠えというものが、私は個人的にあ～美しいと思うので冬こそぜひ行っていただきたい。

あとは、どこにいても目がとどく、634。東京スカイツリー。これだけ並べるだけでも、見どころや名所がたくさんあるが、私が10年間墨田区に住んでいて、お散歩しながらも感じることもあるが、古きよきもの、そして新しいもの、そういった新古が上手に混在していて、下町独特の人情の深さ、そういったものをふとした時に感じられるのが、墨田区の最大の良さなのかなと日々感じている。

#### **(SNSによる情報発信について)**

ここからは、紹介でも話に出ていたSNSの話であるが、私は普段SNSだとInstagramを使っている。いろいろな工夫があるが、日本語の#（ハッシュタグ）だけだと日本語の方にしか届かないが、海外の方にも見てもらえるように英語表記の#をつけるようにすると一気にフォロワーが増えるというアドバイスを、7～8年前に海外に住む友人からいただいた。英語表記の#をつけるようになってから、徐々にフォロワーが増え、現在は25,000人ほどがフォローしてくれている。

SNSで発信している内容は、もともとは息抜きとして日記代りに使っていたということもあり、SNSを見てくれる皆さんが飽きないように、自分自身も楽しんで長く続けられるように、こういった着物姿や仕事風景だけではなく、花街でおお客様方には見せられない休日の洋服姿や趣味の旅行で撮った写真など、カテゴライズをせずに自由に投稿してい

る。自由に投稿する全国の芸者さんがまだ私しかいないので差別化できたのかなと感じる。

お仕事に関する内容を投稿するときには、お仕事中に心掛けている、皆さんが美しいなと思えるような話し言葉を使い、プライベートに関する内容を投稿するときは、身近に感じていただけるような、てやんでい精神というか、ありのままの投稿をしている。生活感をださずにONとOFFを表現するのが私のSNSの特徴なのかと感じている。

SNSを使い始めて一番困ったことが起きたのが、一度目の緊急事態宣言中の時期。前例のない日々を皆さん過ごしていたので、心にゆとりが持てなかったからなのかなと、振り返ると感じるが、誹謗中傷の嵐をはじめて受けた。心無い言葉に傷ついたり、怒ったりもしたが、SNSは今日のテーマでもある、情報を伝える、知らせる、受け取る、それが一番の前提で大事であるが、自分に必要のない情報は、受け流す力さえも養える、今となつては、良い経験、勉強になったと思う。

こういった場所で、皆さんの前にたってお話するという機会が初めてだったので、至らない点が多々あったと思うが、話を聞いていただき感謝申し上げます。今日のすみだタウンミーティングを機会に、今までは意識をしていなかったことも、「知る力」「知らせる力」を皆さんと一緒に勉強させていただいて、今日から積極的にSNSを使って発信していければと思う。

**区民A** 芸者さんの話をきいてすごく楽しくなったので、墨田のそういう明るい部分を、シテイプロモーションの中でもやっていると思うが、京都に負けないで頑張ってもらいたい。向島は戦火でも残ったのだからそういうところも大事にしてほしい。

**区民B** 76歳になったが、6歳から70年墨田区に住んでいる。初めに来たときはすごく遅れている街だと思った。ドブがあって土の道があって、水害があるたびに床上浸水してしまう。そんな街だったけど最近には全部クリアされて、昭和50年代、墨田区の行政もだいぶかわってきた。職人を大事にしている。当初7人からはじまった職人を大事にする会が今では桁が違う。まちの博物館ができたり区が大変応援してくれたり、良い街になってきている。

最近特に思うのが、まちの人たちの安心安全のために何が必要かということ、区が率先してやっている。私たち町会も見習っていきと、まちのみんなと一緒に幸せになっていく。これはどんどん進めていきたいと思う。大学誘致をしたことで、最近千葉大学のかたも来てくれる。それぞれの地区でどうしたら良いのか、活躍できるのかと考え、防災訓練等にもちょこちょこ顔をだしてくれており、良いまちになるんじゃないかなと思う。

**司会** 事前アンケートから、すみだの良さについて紹介する。すみだの良いところはどこですかという事前アンケートで、たくさんの方に書いていただいたのが、人情がある、実はおせっかいといわれるけれどそれがすごくいい、人と人の距離が近い、商店街の人がすご

くよくあいさつしてくれる、公園がたくさんあるし、博物館、美術館、国技館など世界に発信できる場所がたくさんある。意外だったのが、墨田区ってとりたてて特徴がないかもしれないけれど、実はすみだを愛している人がたくさんいるんじゃないか、というご意見をいただいてなるほどなと思った。たしかに歴史や文化はあるけれど今お話しにあったように若い方、今日は20代のかたも積極的に参加いただいている。

**区長** ご意見いただいた中で、まずは京都に負けないで向島花街がんばれと、なつめさんがいるからというわけではないと思うが、墨田区が誇る文化であるし、大相撲や北斎などのコンテンツ、大事な文化を区民の皆さんからのしかりがんばれという、こういうお声ってとても嬉しく感じる。区としてもそういう文化をしっかり発信していきたいなと思った。

同じように職人を大切にするという歴史があるというのも、江戸時代からいろいろな流れがあるが、まさに今にいきるすばらしい技術がある。このルーツを大切にしながら大学や情報発信、それからいろいろなものにつなげていって新しいすみだモデルをつくっていく。大切にせず残すこと、それを改良、情報発信を含めてもっともっと伝える力、これが大切かなと思う。

最後に人情やおせっかい、商店街での声掛け、いろんな観光資源もあるとか、良く言われる、墨田区を好きで、誇りをもっていただける方を増やしていきたい。すみだ愛、これを多くの皆さんにもっていただく努力を続けていきたい。地域力日本一という言葉を使っているが、すみだが持っている可能性の中で、地域の力、すみだ愛をもった人が一人でも多く、私も参画する、区長に言う、こういう流れの中で墨田区を前進させていくことがすみだの魅力であり、一人ひとりの心があたたかい、人情味がある、これは下町のコミュニケーションとして23区の中でも誇れるものかなと思う。

(メインディスカッションに続く)